モンスターハンター　～輝く季節へ～

如月 俊弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
モンスターハンター　～輝く季節へ～

【Ｎコード】
Ｎ０１９４Ｚ

【作者名】
如月　俊弥

【あらすじ】
大いなる大地、遥かなる空、その中に生きる人々達やモンスター達、それはすべて自然の恩恵を受けて生きてる。大きな世界の中の一人の少年の物語。さまざま人と出会って色々なことは学んで成長していく、シリアスあり、笑い・ネタあり、涙あり（・・・あるかな？）のストーリーがここに始まる。

第一話　リヒト（前書き）

初投稿・処女作品です。一人のハンターの成長をギャグ（多々のネタ）あり・シリアスありで描いていくです。
誤字脱字の指摘や感想をお待ちしております。

第一話　リヒト

木々が立ち並び、山脈に沿って流れる川、むき出し岩肌
それ一つ一つ荒々しく自然の営みをかもしだしている

「ふぅ、これで終わりっと」

その渓流の中に額の汗を軽く拭きため息をつく少年がいる
彼はリヒト・フィリング2か月前に街の訓練学校を卒業したばかりの新米ハンターである。

「今回は運が良かった、それにジャギィ相手にもだいぶ慣れてきたみたいだし」

足元にオレンジ色の体に背中に紫のラインが入ってる小型の肉食性の鳥竜種が倒れている
今彼が受けているクエストはジャギィ5頭の討伐である
基本ジャギィは群れで行動しているのだが今回は一頭や二頭づつで行動していたため
普段手こずる相手でも容易に倒すことができたのだ
戦闘で刃こぼれしたボーンククリを研ぎ直して腰に戻し

丁寧に剥ぎ取りを始めた。

「一通り回ったしそろそろ、村に戻ろうかな」

ベースキャンプに向かって歩きだした。

それを見る一つの陰に気が付かずに。

第一話　リヒト（後書き）

戦闘シーンがうまくまとまらなかったのでスルーしちゃいました（^^；

これから少しづつ書いていこう思いますのでよろしくお願います。

第二話　エルファロ村（前書き）

1週間ぶりです。

投稿は週1くらいにしていこうかと考えてきます。
無理に期日を短くしちゃうと後が大変そうなので
では第二話です。どうぞ

第二話　エルファロ村

山間にある小さな村それがリヒトの故郷であり拠点のエルファロ村
まだ村が立ち上がって２０数年と言うまだ若い村だが
東方とロルメルトの間に位置し山間とゆうモンスターに襲われにくい場所にあるため
キャラバンなどが東方や都市に行くための中間地点の役割を担ってる村である

「よぅ、お疲れさん」

不意に声をかけられ振り向くと自称門番のアルトが門の前に座っていた。

「あっ、アルトさん」

リヒトはそばまで行きアルトの隣に腰をおろす。

「お前が訓練校から帰ってきてもう2か月か、ハンター生活には慣れたか？」

「ええ、ジャギィやジャギノスくらなら大丈夫ですけど、大型モンスターなんて無理ですよ」

「俺ら一般人からすれば大したもんだよ、ジャギィでも怖いからな」

「そうは言っても俺もまだ怖いですよ。囲まれると大変ですからね。」

「それでもすごいさ、それにお前はこの村の唯一のハンターなんだから大怪我だけはしないでくれよ」

「わかりました、ではそろそろ村長のとこに行きますね」

リヒトはそういって立ち上がる

「そうか、じゃ俺は引き続き見張りとゆう名目の仮眠を続けるとしよう」

そう言って門にもたれてしまった。

「それは見張りにすらなってませんよ」

リヒトは苦笑をもらしてまう

アルトは気にした様子もなく目をつぶってしまった

それをみて、相変わらずだなと思いながら村長のところに向かって歩きだした

エルファロ村の中心には樹齢数百年ともいわれる大きな木があり、その木を中心に村を作っている

木には縄がまかれており御神木として祭られている。

村長はいつも木に下にいる為探さなくてもすぐ見つかるのだ。

「おかえり、リヒト君」

容姿端麗だがリヒトやアルトより耳が大きく垂れて女性がいた。

彼女は竜人族であり人間や獣人族とは種族で

鍛冶や調合などの高度な技巧を備えた争いを好まない種族である

「村長以来のジャギィ5匹終わりました。」

「ありがと、報酬は酒場で受とってね。あとで・・・ちょっとお話があるんだけどいいかな？」

村長は困ったような顔で口を濁らせた

「話ですか？いいですよ」

不思議そうに返事をするがここでは言いにくいことなんだろうとわりきり深くは聞かなようにした

「帰ったばっかりで疲れてるのにごめんね、落ち着いたらでいいから私の家にきてね」

「わかりました。後でうかがいますよ」

リヒトは話の内容に気になりながらその場を後にした。

村唯一の酒場は簡易ギルドも兼ねており、リヒトはここで依頼を受

注している。

「リヒト君帰ったんだ。どうだった？」

酒場の店主であるファラスが声をかけてくれた。

「今回はわりと楽にできましたよ」

「そうかそうか、リヒト君もハンターらしくなってきたな」

「そうですね。前はジャギィ３匹でも一苦労でしたからね」

笑いながら答えるとファラスがハチミツミルクを出してくれた。

「今日は俺のおごりだ。あとこれが報酬な」

「ありがとうございます」

そういってミルクを飲む

「やっぱり、ファラスさんのハチミツミルクはおいしいですね」

「うれしいことといってくれるじゃないか、うちのは厳選したポポミルクとハチミツでつくってるからな」

「おいしいわけですね。御馳走様でした。」

のこりのミルクを飲み干しで立ち上がる

「もう行くのか？」

「ええ母にも報告と村長にも呼ばれていますので」

「そうか、なら仕方ないな」

そうゆうとファラスは納得した様子でうなずいた

「また来ますね」

リヒトは笑顔でそういい酒場をでていった。

第二話　エルファロ村（後書き）

どうでしたか？今回は主人公の拠点となる村に書いてみました。
文字数も前回よりかなり増えたと思います。
誤字、脱字のご指摘がありましたらよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0194z/

モンスターハンター　～輝く季節へ～

2011年12月6日23時48分発行